

http://www

知求会 EU 支部ニュースレター

Newsreel Word

2013 年 4 月 1 日
第 7 号

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

- 1 イタリア 総選挙
新たな選挙のかたち
- 2 EU 支部だより
これからも、よろしく!

- ・インターネット選挙運動
- ・ブログの活用
- ・フランス 2002 年
- ・ドイツ 2002 年
- ・金権政治の打開策?

イタリア 総選挙—新たな選挙のかたち

イタリア総選挙が 2 月に行われた。有力団体三つどもえの選挙戦が繰り広げられた中で、あるコメディアンが創設した政治団体が興味深い活動をみせた。ブログで情報を発信し、候補者をインターネット投票で選ぶなど、ネット中心の活動を行ったのだ。「カネのかからない選挙・政治」を訴えての新たな選挙のかたちは、これまでのイタリア政治における金権体質を打破したいと願う国民や若者層を中心に支持を広げていった。

イタリアと同様インターネット選挙運動を広く認めている国は多い。フランス 2002 年の大統領選挙、総選挙では、資金力のない中小の候補者が安価な手段としてインターネットを活用。ホームページを開設し、選挙に関する多くの情報を流すと同時に選挙運動も行われた。彼らは、マスメディアに取り上げられることがほとんどなかったため、ホームページを通して政策・主張を訴えたのである。

ドイツでは 1990 年代半ば、政党が初めて党のホームページを開設した。ドイツの選挙は政党中心の選挙だが、2002 年総選挙の際候補者の多くがホームページを開設していた。一方、選挙運動ではないが、ドイツ政府の一部門である政治教育センターが、有権者のためにホームページを開設。総選挙でどの政党を選択したらよいか、政策面を比較し、簡単な選択をするだけで、どの政党の政策の傾向に自分の考えが近いかを知ることができた。このホームページは好評だったため、その後の選挙でも用いられている。

インターネットの特徴の 1 つは双方向性である。その特徴を活用し、有権者の声を集め、政策や党の計画に反映させるという動きが、今後、どのように展開していくのだろうか。資金力のない候補者の安価な PR 手段にとどまるのか、金権政治を打破する特効薬となるのか、または、有権者の声を即時に反映するための双方向ツールとなりうるのだろうか。

イタリアのあるコメディアンが創設した政治団体は、彼らの集会をネットに流し、支持者の声を拾うことで、今回の選挙において「台風の目」と評された。選挙は投票先が割れ、明確な勝者がいない結果となり、政権の行方は混とんとしている。しかしそんな中でも、上記政党は下院で約 25% の得票率を得た。モンティ首相の中道連合は同 10% と 4 番手であったことから国民の政治への不信が再度明らかとなったイタリア総選挙であった。

EU 支部だより —これからも、よろしく!

- ・入学前宿泊研修
- ・会う前から友達!
- ・ブログでオフ会
- ・インターネット

私ごとですが、ただいま大阪の大学で働いています。大学では新入生に入学前宿泊研修を行っています。その研修で初めて会うであろう学生達は、不安がいっぱい?と思いきや、すでにほとんどが「知り合い」なのだそうです。それは、ツイッター。「〇〇大学に入学するひとつ!」といった形ですでに知りあっており、研修時は「あなたが△△ちゃんなのね」と顔の確認が済めば、もう友人なのだそうです。一方「出遅れた」と言っている学生もいました。合格決定時期が遅く、ツイッターに参加していなかった学生たちです。周りのオフ会的雰囲気後悔しきりだったそうです。インターネットにホームページ、ブログにフェイスブック。メールやラインもあって当たり前現在の現在です。世界中どこにいても、どんな遠くの人とも顔を見て会話ができて、情報交換もリアルタイムできてしまう今、大阪にいる私ですが、EU の情報を沢山お届けできるのではないかと思いますし、是非、お届けしていきたいと願っています。これからも、どうぞ宜しくお願いいたします。

